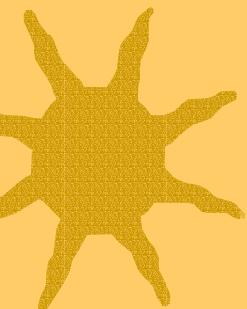
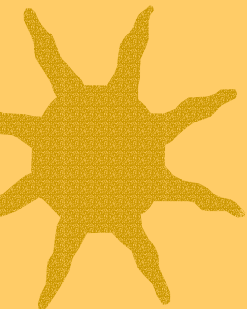
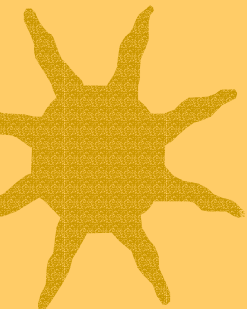




キリスト教教理入門

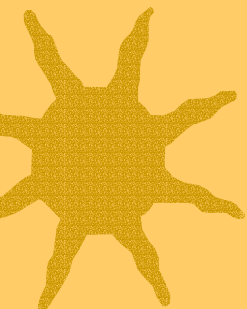
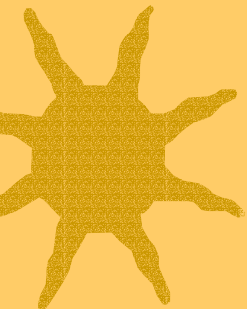
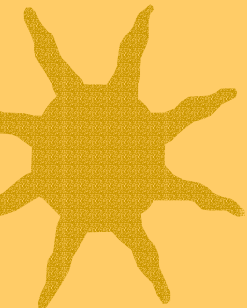


1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末



第十部 救済論

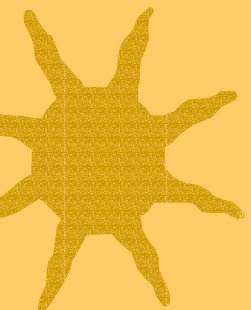
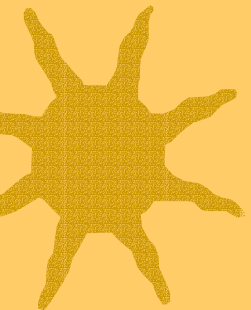
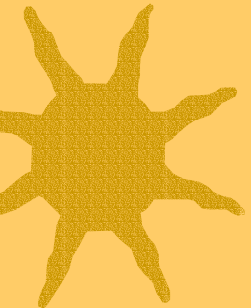
- ★ 30章 救いの概念
- ★ 31章 救いの先行性：予定
- ★ 32章 救いの始まり：主観的側面
- ★ 33章 救いの始まり：客観的側面
- ★ 34章 救いの継続と完成





第30章 救いの概念

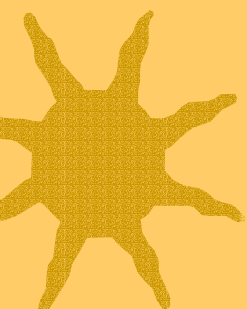
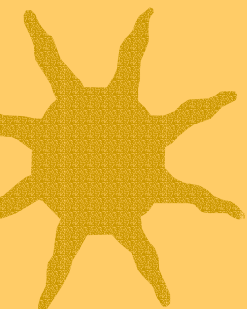
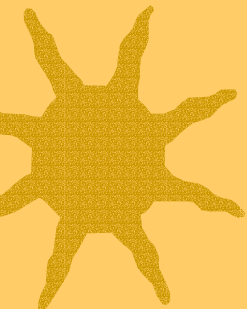
1. 救いの概念が相違する項目
 1. 時間の次元
 2. 必要の性質と所在
 3. 救いの手段
 4. 救いの運動の方向
 5. 救いの範囲
2. 最近の救いについての概念
 1. 解放の神学
 2. 実存主義神学
 3. 世俗神学
 4. 今日のカトリックの神学
 5. 福音主義神学





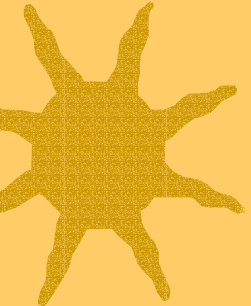
序

1. 救い = キリストのみわざの適用
2. 私たちの緊急の必要
3. 救いが必要としている概念
4. 幾つかの見方の分析



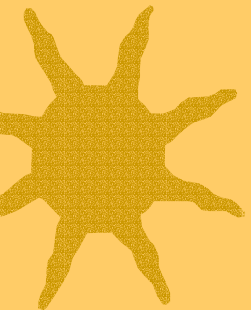


1. 救いの概念が相違する項目 時間の次元

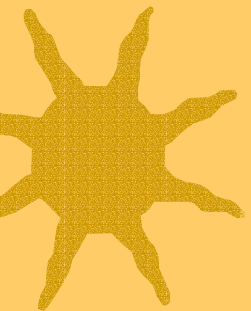


1. 救いは時間に関係している

1. 端緒
2. プロセス
3. 未来



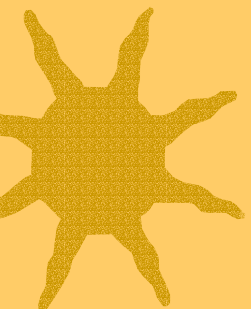
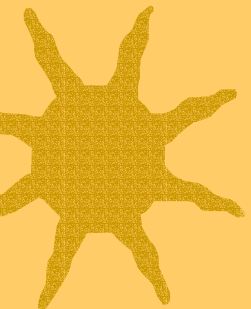
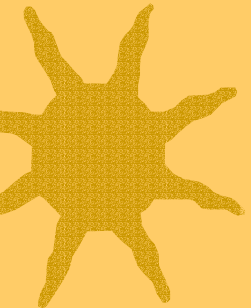
2. 時間的枠組みの種類の設定





1. 救いの概念が相違する項目 必要の性質と所在

1. 伝統的見方...性質において垂直的
 - ★ 福音主義の見方
2. 水平的見方...個人・社会における関係の調和・癒し
 1. 関係の神学...個々人の不適應・小さなグループの問題
 2. 解放の神学...民族間の鬭争・経済の格差の鬭争
3. 内面的問題...個々人は根絶すべき感情に責められている
 - ★ 罪責・劣等感・不安...適應・自己理解・自己受容・自己評価における成長





1. 救いの概念が相違する項目

救いの手段

1. 物質的プロセス

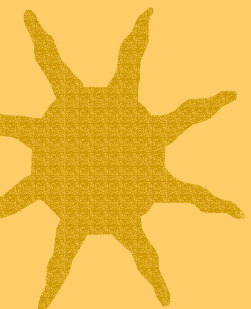
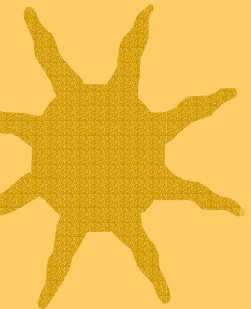
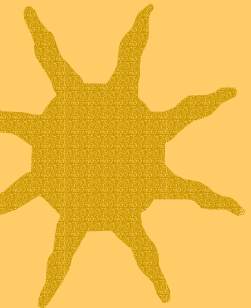
1. 礼典主義者... 聖餐のパンにあずかる
2. 伝統的ローマカトリック
3. 陪餐者の内的態度

2. 道徳的行為

1. 事柄の状態を変える
2. 社会的福音運動
3. 解放の神学

3. 信仰

1. キリストにより達成されたみわざの適用
2. 受領者は受身





1. 救いの概念が相違する項目

救いの運動の方向

1. 救いの運動の方向性

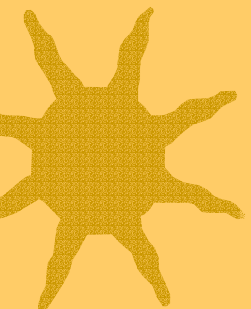
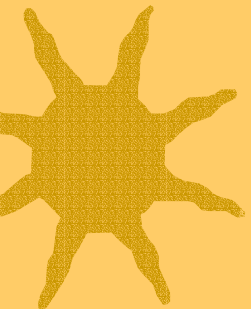
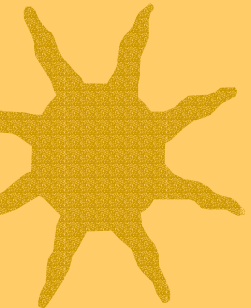
1. 個々人の救い 社会変革
2. 社会変革 個人変革

2. 19世紀後半・20世紀初期の社会的福音運動

1. 墮落した人間の性質にではなく
2. 悪しき社会的環境

3. 回心を強調するキリスト教

1. 人間の性質は根本的に腐敗している
2. 個々人の変革こそが社会変革の真の希望

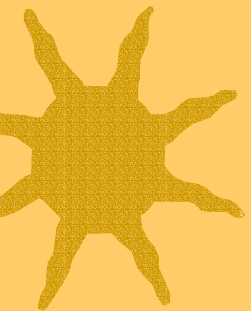
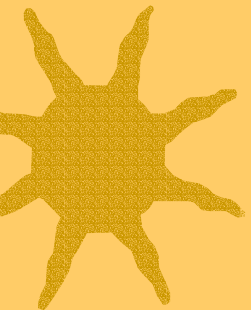
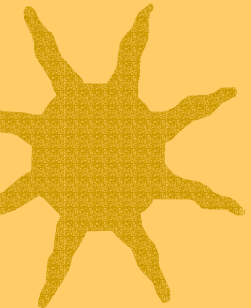




1. 救いの概念が相違する項目

救いの範囲

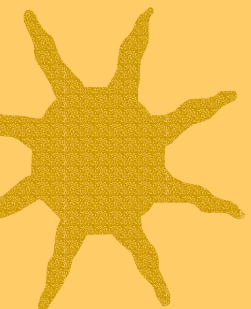
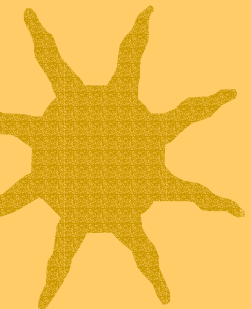
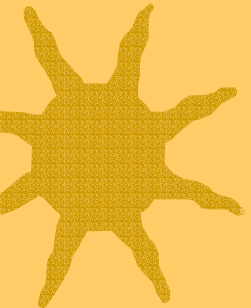
1. 社会へではなく、個々人への救いの適用を考慮する人々の問題
2. だれが、どれくらいの人々が救われるのか？
3. **特定救済論者**
 1. 個々人の神の恵みへの応答を基盤にしている
 2. ある者は救われ、他の者は失われる
4. **普遍救済論者**
 1. すべての人々が救われ
 2. 誰も失われる者はない
5. **楽観的な特定救済論者**
 1. 救いのために信仰が必要
 2. すべての人はそのようにするだろう
6. **ありふれた普遍救済論者**
 1. 神はある基盤の上に簡単にすべての人々を受け入れる





2. 最近の救いについての概念 解放の神学

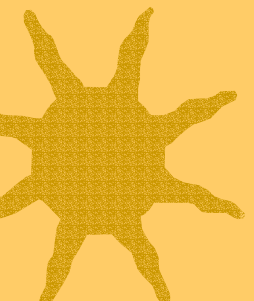
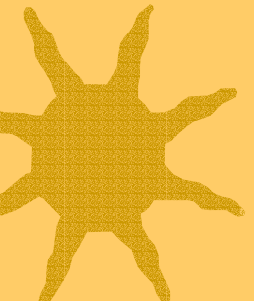
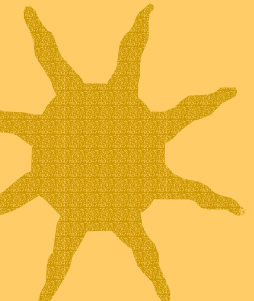
1. **解放の神学**
 1. 黒人神学
 2. 女性神学
 3. 第三世界神学
2. **社会の基本的問題**
 1. 抑圧・搾取
 2. 救い - 解放
3. **人間の苦境についての分析**
 1. 社会の発展は問題を解決せず
 2. 神は抑圧されている人々の味方
4. **救いの性質について**
 1. 救いを死後の生として考えず
 2. 現在における神の国の達成として





2. 最近の救いについての概念 実存主義神学

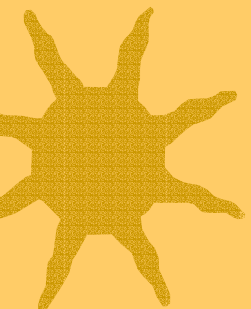
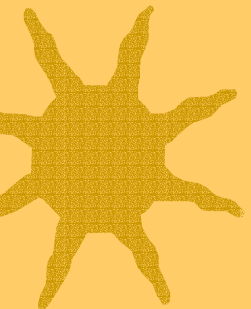
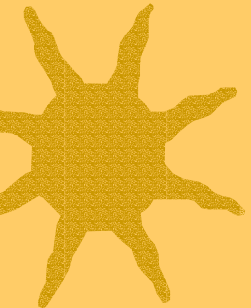
1. 20世紀神学 - 実存主義的
 1. ルドルフ・ブルトマン
 2. マルティン・ハイデッガー
2. ブルトマンはハイデッガーから真正・非真正の概念を
 1. 自己中心的な方向付け
 2. 自身の努力によって真の保証を
3. 人間は神と福音によって召され
 1. 御言葉は、神に召して
 2. 御言葉は、真正な自身に召して





2. 最近の救いについての概念 世俗神学

1. 文化の環境の変化
2. キリスト教と世俗主義
 1. 競争相手として
 2. キリスト教信仰の成熟した表現として
 1. ディートリッヒ・ボンヘッファー
 2. ジョン・A・T・ロビンソン
 3. 神の死の神学者たち
3. 伝統的な救いの理解の拒否
 1. 世界から移され、超自然的恵みの受容ではなく
 2. 自己の能力の実現・役立てる・神からの自立・世界の必要に





2. 最近の救いについての概念 今日のカトリック神学

1. 今日のカトリック神学についての研究

1. 公的な教理的基準はそのまま
2. 第二バチカン公会議と個々の学者

2. 公式のカトリックの立場

1. カトリック教会が神の恵みの唯一の管
2. 神の恵みの排他的販売権

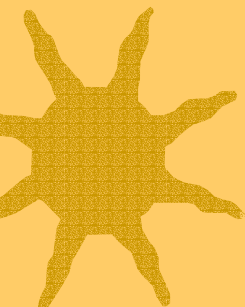
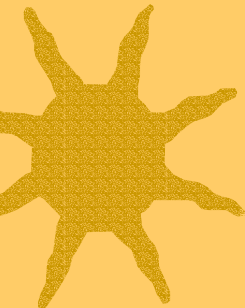
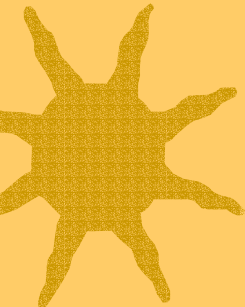
3. 伝統的立場は和らげられている

★ メンバーシップの程度差を認める: Y. コンガー

1. カトリック教会に組み込まれている人々: カトリックのクリスチャン
2. カトリック教会に結びつけられている人々: カトリック外のクリスチャン
3. カトリック教会に関係づけられている人々: 未信者「匿名のキリスト者」K. ラーナー

4. カール・バルトの神学についてのH. キュンクの研究

1. 救いの性質についての議論
2. 義認と聖化(プロテスタント) - 義化(カトリック)
3. バルトとトレントの間には、軋轢はない





2. 最近の救いについての概念 福音主義神学

1. 伝統的正統主義(福音主義)
 1. 人間の苦境についての正統的理解
 2. 神と人間の関係こそ第一のもの
2. 人間の罪の問題 - 二つの主要な側面
 1. 罪は神との破綻した関係
 2. 人間の真の性質は律法からの逸脱の結果として損なわれた
3. 救いの教理
 1. 神に関する人間の立場の問題
 2. 個人の法的立場 - 有罪から無罪へ
 3. 義認 子とされること
4. 人間の心の状態を変えること
 - ★ 再生 聖化 栄化 堅忍
5. 救いの手段
 - ★ 神の言葉 信仰 結果としての行為
6. 救いの範囲
 - ★ 普遍救済主義と特定救済主義の問題
7. 福音主義の立場の採用とその展開

